後撰和歌集巻第十六

雜部第二

六百
延喜十七年十月十七日行幸北野枇杷左大臣内中納言春宮大夫左兵衛督

天つそらてくそのせくふしとをくらしのこゑをちらしてき [illegible]

戒仙かふるさと山にてかへりてもわ侍らんよいもしは法

師まうてこさく侍りけるにまうてく侍るらは

よみ人しらす

六百 素性集

花さへ海とも見えける山かけおちつゝ波にちかよりけれ

見てうれしかりけるひらく時よりすくおもかけしてつと

めくるとしも侍るらむ

藤原おきかせ

六百 不載

思ひあへさゆるしえ山をとへるはうけさしかおきえもわらは

見よし侍るうちまつ時は志賀よつゝ山よまてかれそかむを

千里 古今

さよふけてなくかりかねのよりよりわたるらくよりみゆいかね

家

よみ人しらす

六百 風

あるとき昔の山乃井出川にあらけむめせくらちけては

宇治のあしろにまかりてみるよそれをもかへもみ

家

大江興俊

甲斐少目

六わろ

宇ち川の浪よみなれし君ませは網代よわれもよりぬへき

清のみもと河よおもしろし時人にかはりてよみて

てらをさせ給へるまゝにて

根源の所又猶ほまよひ

小式部のめのと

ちとせふる松はたかくささめかたにそへ風にてしは

私云 花山院まうてゝ侍りけるに
あらしの風のふきけるをつかはし
けれは
京よりまゐ延喜御時にたてまつりける
つかはしけるにたてまつりたま
ふるへきよしおほせられけるとて
あるふまうてまて

天暦六年左少将蔵人
九年十一月廿五下天暦
元年卆
清慎公子

万十 風のちる花橘を袖
にうけてきみかみともとふつる
上秋中

へさうしおほせつかはしけるにさはわかれてすなはち
まかりわかれむせ事とは飽ありてなかれ
ちりけれは　うせ法師

六 六十五首
拾 雑上

とし月の風のわかれそくむ生つ風たなひくそ山おもえなる

けるに 於

やまひしてはへりけるに大輔まかりける

撰集云 左少将うせてのちに藤原敦敏とてよみける

佐国目録にも

藤原敦敏

まつとしもしらぬこのてかしはのおもかはりつゝ

比集同

立五之三右三

あし　大輔

咲そむる花をゆかし花と万代ことちらさしとやまかせに

此歌ヤハ心ノヤトス

あはれともしる人ありて神なくさめよ

敦ふる人まつ宮のためにかきてまゐりて
よみける内の歌よまれ

菱万下
かしこみちるてつかはしに
こりんつるまおもふに
きみをよつけ

右こ　恵慶
あつまての所にて
こころあはれ侍に
みすくつかすり
そこに藤を宮のよせて
居ゆるをうけとまゐりて
居よりて藤の内侍
菅家と近喜式
康保ゝ香推之日本
紀の種日とかねなる
あひ合ともし限
よろしふんつれは
んとうけてめつらし
かつり女のうくし

おとこのまうてゝ　よみ人しらす

しらとみく袖よりこほるゝなみたのむかしのなかの
あるなれは女郎花みよし南殿よきかひ
ところをとりてわけむかしの瀬に
ちるものそにほひてはなをわけむとて
よるへとしるなるとをふりつかへて

とし　ひらイナ

よみ人しらす

まさりて波の月をなれてかへる
かはるる川をまつの見え
ある

オムノ ヒト
輔臣朝臣

春宮少進刑部大判事
参議玄上子延長七年

時さてしあはれなる川をあたらこのみちのめをぬきよ
くのりとめてはせはよめひくつかはしたて

よみ人しらす

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

於雜
夜は扇をいたづらにまくらとなしてつきしられぬ人をまつらんや

よみ人しらす
玉ゆらのみなれやわかく風のさそひてやまぬ人を
おもふこの池のいろとさわきつゝわすれくさ
くれさの川のかしけるかな

白浪のさわくなみのうへによるみをとそおもふ袖は我身

題しらす
こゝろとはたえてさわかれし浪にもあらぬ袖のぬれけむ

六帖
身にちかき名をそたのみし陸奥のころも川とみてや
わたらん

よみ人しらす
たつらとていかなる人か衣の関もあらまほしき
まちかねのひとしれすわかこゝろにおもほゆる

忘しと思ふは
知らぬおもひ
とふらとも
いひし

ひとしれぬ思はつらき
あひぬまつよ恋しき道しるへわか身はさそ恋しさに
題しらす
いつはりのよにふるそらの雲のまに恋ひてうき世かけしとそおもふ
人のよにありしかはひとへにしのひつゝ我らはれぬく

古今 沖浪
世の中はいとふるかゆゑにみとゝはむ
うつり行くおなしうき世をいとひてはいく
たびかへり

賀朝法師
身をすてゝ人にしられぬ世中にまた山をこもりすむ

題しらす
これとの朝臣
世中にしられぬ山にかくれなはたれのまとゐやいつくかはさん

山井
三条坊門北京極西
六帖 くもりなくすみてそ
うつりけるいかなる影の山の井のみつ

山の井のこゝろは浅くなりにけるかな

赤染集 花の山の井
古今枕詞
大和物語云 大沼殿

よみ人しらず

あさよのことことはやまもりさくとしいさみて山の井の水
やまひころとおもひしてわたこれわたりとさて
こその山おとろくしらておもひさくの中にあふらん

題しらず

みすみぬ身ともろく吉野山高けさをえしらぬ

清和天皇女一品母二条后於芳大炊御門南西洞院西
吉野山きえんまてうつろふこともえしらぬ
陽成院のみかとときわくさの丹よきみのあそ
ころとひさしくおもふことは

武蔵
けふ

大和物語
かたらぬ身よそとくらめの白玉はきえまし物をおもふ
まかれかはひけつ女のもとにけそのこみてやりける
返しつまとつめてよまてもくかまえこと
おつろしおれよみ人しらず

後撰 後拾遺 平兼盛
雜波えに江のあしの末よりくさりけん人の心
女のりとおもふみとせくゆらむぬすみ
わか身には根さへ身にしたかぬ山風もふかき
むかしおもひとてうまやつらへしうわけ
女のおとこよつさえくの園よわかぬこわる

於雜記 讀人不知

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用　挟み込み物

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

大和物語

批把左大将

侍従

批把左大将

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

大和物語云さての
所といふ人む月に
清水にまうてにけり
おこなひなとし
てきゝゐたりけれはあや
しうたうとき
法師の声にてときやう
たらによむこの小町あや
しかりてつれなき
やうにて人をやりて
見せけれはみのひと
つきたる法師のこし
に火うちけなとゆひ
つけたるなんすみに
ゐたるといひけり
かくてなをきくに
こゑいとたうとくめて
たうきこゆれは
たゝなる人にはよに
あらしもし少将大徳
にやあらんとおもひにけり
いかゝいふとて此御寺に
なん侍るいとさむきに
きぬひとつしはしかし
給へとて
哥し
といひやりける返ことに
哥し
といひたりけるにさらに
少将なりけりとおもひ
ひてたゝにもかたらひ
し中なりけれは
あひてものもいはん
とおもひていきたれは
かいけつやうにうせ
にけり

僧正遍昭と
きこえける
人の父の
うまれし
古今にも
そのかはり
とかけるこそ

後撰和謌集巻第十七

雜哥三

いそのかみといふてらにまうてゝ日のくれにけれは
夜あけてまかりかへらむとてとゝまりてこの
寺に遍昭侍りと人のつけ侍りけれはものいひ
心みむとていひ侍りける
をのゝこまち

岩のうへに旅ねをすれはいとさむし苔の衣を我にかさなむ

返し
遍昭

世をそむく苔の衣はたゝひとへかさねはうとしいさふたりねむ

法皇にわかれ奉りてのちふるさとにとゝまりて侍るを
かへりやうしあつまのかたにまかりけるを
侍りく世ゝ　僧正のこさみ
わか事はさらにけしきをみえ欲ましなむの数にかそへむ猶とそ思ふ
世の中はとにもかくにもあるをさきこゆるものとはいひそ
侍れとも　左大臣
あるへき世をなをさきにあたらかはわかみに世をまかせはしる
題しらす
よみ人しらす
あまのはらまたしらさるをあけ世はわかれはなれぬそこらへきを
おしこまる事侍りてくさのうちに侍りけるをおもひてよめる

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

すゝわけて侍りけるをりにかの家（女イ）をとふらひけ
るをきゝてかのくるまにいひいれ侍りける

貫之

（六　家）
浪よりのこゝろはれつゝ物と風のたよりにわかれこも雲路
おもふこゝろのあるかはそらにせめてもあかなくに
こゝろなるをはしつくらぬかたちに（しイ）ひとて
とふへき人とさしあてゝみるとわ
これを

よみ人しらす

お柱女ノ子トス

みそかにまかりける（延喜母更衣周子）女のもとにてほとなくはえかはらてしはかりせは世をすまん
放女宮のみこのもとにさゝけてやる（菩提子）のすゝ

三代実録云貞観七年四月十八日乙丑以傳燈大法師位宗延為内内供奉十禅寺　门名なれと異代異人也

菩提ハ道ト読ム譜　ヒリ　お柱

清女抄云……

みん春大臣のもとにゐ御消息にてこのすゝとおに
とてつかはし侍りける　　宗延法師
思ひまさりそやまさんとの佛よりはこのみなに宣
殿し
右大臣
道をわかこのすゝをあさからすおもひてみなそれに遣
信心あらはしゆかぬもとのこゝろも女
そしらるのりもよりわかせりつかはしれよまれ
よみ人しらす
ふつかたものまえしよゐにつけくれはとて
お前のおもふかなへのまあらくなとそ

立四六オ

あつまりて侍りけるに女の家をとぶらひけ 女イ
るに侍りけれは出ていく車にのせつかはしける

貫之

六
家
浪よのこぬれつゝ知るも風のたよりにかれぬ知るを知る
おもしろ乃知る所にてつとせつるをあきれて
さくらちるとりへつゝ乃ちらふきつゝあらよ
とへにかへりときはしる雨ふりそめとこわ
なれを

よみ人しらす

延喜母更衣用子
みなわかなりけり左大臣にこてあはせてはみかわかみちせらん
女御のみこのためにさきそへてちる(?)のみ
菩提子

三代実録云貞観七年四月十五日乙丑以傳燈大法師位遍昭為内供奉十禅師　门名な
れと異代異人也

清女仰云...
...

右大臣よりあめ給はゝこゝのすゑをかくら
とてくだし侍るに　真静法師
思ひきやこゝのやまさとの佛にまいるこのみくら
起し　右大臣
道にならひこのみちをあらはしあるとみつをれ
行くめにこゝろしのひとわかへとのこゝろし女
そこらのりとわかおもふ知るゝ侍りける
よみ人しらす
ちるとみてよそにあはれなる事にもゆきぬ
お秋のかうふきへのまあひくねとさそへ

ゆきふかきのみちのりとをはひとまかせにひは
つきかけたへかたの川のかはつけ侍

素延法師

風さむみよさゆのとこにこほるなみにうきねもふかきあ

題しらす

行明のみこ

山ふかみあたりのきのふかきにもなゝのこゑをつきてなけは
たかさくらさくなれはちるにもおもひそ

あきひとの月をみて

六帖
たかさくらちるとみえてもさくなそ山のはるのしらさきわかれ

たつねてもよきことも人心

わすれ川とをひとつの御前にてのとまりも根つらし

朝日のかたとありし給はりけれは

世中をいとひてふかき山にすむ人の心をおもひやるかな

わか母のなくなりてのちおもふことをいかにせんと

秋のつきをはるゝにそかはりてこそ月日のかく

はれてあはれとおもひわたるうきよのうきか

侍るころにはれぬ侍るときをうらめしとて

あはれなる人もなくてゆくへしらぬ侍

しられても

よみ人しらす

まよふこともなきよのなかにわかれきおもひけるかな

おもひきやみちのわかれのつらけれは
たのまぬものゝまつそかなしき

下句同

新古今雑中

能宣朝臣

大原野にまうでて侍りけるに
よる人のこゝろを
世の中をそむきはてにしものなれは
ゆかしきことはいまはなくとも
ものゆかし

業平
めきみたる人こそあるらし白玉のまなくもちるか袖のせはきに

人の家にまかりて侍りけるにやり水に滝を
切りおとしたりけるをみてよみ侍りける

滝つせにたれ白玉をみたりけむひろひしかとも袖はひちにき

法皇よしのゝ滝御らんしける所にて

源昇朝臣　大納言氏ナシ 融公男 延喜十八年薨

いつのまにふりつもるらんみ吉野の山のかひよりくつれおつる雪

法皇御製

宮の滝むへも名におひてきこえけりおつるしら淡の玉ひゝけは

山のかへしもめくる時

僧正遍昭

今さらに我はかへらし滝見つゝよへときかすとゝはゝこたへよ

同し滝をよめる　躬恒

なきつをあつまさことふさあめく花粉そてころよあまさ
そらめくみしらぬかなりつる時ものよかまろ
ありける

遍昭

かくらめかのあれそれ心もゝのまゝ黒髪をみてやみ給ん
みちのくのこのまゝにわかそてはおそらふ
たかまつの松のみとりもみえくる小松
おいつゝ世をそくゆとてそのちよあまて
おまりかねてかのそれの在よく松を

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

後撰和謌集巻第十八

雑哥四

かうつとさて　　よみ人しらず

我やとふかほいやそめしをなくもをゆするよれいや猶あらじ

人もあまくきうりてゆかけるむすめのりとよまさとも

まちわりとはるこのころはありいさらめくるか

ゆめたのもしき事なわとたりけれどもせぬ

猶なれて

むかしくあかりをかはるはけくられ雅とら我りさらめん

かくこのもしめいりよありへつさ渡かるわらえん

[illegible]

縷　老懸

女のもとにきえとけぬるをみてあやしく思ひけれぬ

さ渡なる事とていひつかはしける

みちのくのをちかたちれて海し野かはあれそまさりつゝものゝ

中ねりくゆよきくひとる身よあかいきつかはし

女とくのさしよつかやまく身をいとけをやり

とさあめなくるとかくよりてとわかて声さむ

よすがかへなこの女ありとらまいりおびいけを

とりせくわかれなる事ありつひくねくるろ過

車に　　源善朝臣

いとて我さりもんおもふつ我いむしれられなくて

老懸之

ゑこゝは日こゝろし
源も 抜枝
花のまゝとえうゝの
神よりつきてこと
おまもりといふや
とうめん

なにはつにさくへき人のくまれころにふに侍くゝ家
まいさゝうまかのかつさわきちけに女にもよ
川かりしけり よみ人しらす
あさとふみ数落花しぬれはよのあやもわか浴みかに
こぞさくらちり侍りぬる人を家よのわかめくにお
とさえてあひまつやまかへてきみかつらさえさわ
なれそ
いりとまつらのおさくむすらてよそてはなのさ
題しらす よみ人
[illegible]わたる川八袖ふかかるなにとかすさなれぬ物かは

奥義抄云
イセトハ五十鈴トテアリ
スヘテ五ノ字ヲハイト云
イカナトモ五十
日ナリ万葉ニハ五百
重ト云テイツヘトヨ
ム五百代小田ト云テ
イヲシロヲタトヨメリ

拾芥抄云北辺亭
土御門北西洞院西
左大臣源信公家

北辺大臣 源信

あまたゝみぬ山ちよ五雲をふ風をみなみのそよかわとのなか
おしこの人におきあまくとまれやおくさなわか
かとやうらなれ いを

家
わそか川かちそよかるんてもみなつのともの人たにあわ
人のむこのいまさてえんとひくまかわまく
うえとそする人おわときてひさうすまって
[illegible]

アスカハフチ[illegible]
万葉ニ
[illegible]
三ノオ
万葉ニ
[illegible]
又つへしソセ
三
[illegible]
三
[illegible]
[illegible]

僻案抄云[illegible]
[illegible]

新しいはしとこよし　源も撰歌
花のまくとえつさの
神よふつりてこと
あまりとしいまや
とうめん

奥義抄云
イセトハ五十鈴トテナリ
スヘテ五ノ字ヲハイトスヘシ
イカナトスモ五十
日ナリ万葉ニハ五百
重トカキテイツヘトヨ
ム五百代小田トカキテ
イホシロヲダトヨメリ

たなわよつさて人のくま見てりてふ行て京
よいさうらまかわのなつさわきを時よ衣さらよ
川かりしける　よみ人しらす
あさてとふみ難波潟かくぬ氣もよのおやまもれて法かかゝ
さそさくよる待たる人を京よのおはわさお
とさくてあひまつよまちてさゝかつさえさわ
なれて
いそとまつらのおさてむまちてとよそて海人のまさ
題しらす　いせ
いせわたる川は袖よりなかるれとゝはぬに人はなかるさ

拾芥抄云北邊亭　土御門北西洞院西　左大臣源信公家

北邊大臣　源信

人たまぬ山ちよ立雲を風みなのなかおとの名
おしこの人よもあまくさくまれわあらなかぬ
題しらす　いせ
わたる川ちらきよきぬみてふみかのもうものゝかひよあわ
人のむこのゝまくそてるんとてひくまかれよくる
これとこすらん　おわとききてひさうりまくて
こさわくれてあとうかてわのんをとちえて
あんやたらとつひけのうしけるめ
女のち

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166
ガラス使用

和名
苦竹　加波多計

身のうれも竹のよふかくさうけく川のま
しらる　よみ人しらす
うつつにも秋の風のよゐの河竹のよなよなに秋のさえ
題しらす　藤原為家
かきほにはそよくさえ竹のよふかき秋風吹ぬる
題しらす　読人しらす
いとなきに秋風のふく草葉のしわかれに秋のたちそめる
たいしらす
あしの葉もさわくに秋のよのこゑかそふ
よみ人しらす

伊勢集

雲ちかくまた声ぬ我さへ河竹のよなよなにこそなけ
ちかきわたりにもありけるよとしさわける
みえもせぬ人をまたかくてよにもなにたれとのみ
とせ
言の葉のしけきよるはとそきたつ夜
そせいのふかれて
いまのみん竹のすなおかしこもの
おとこの家まかりたるかけ
山の山の岸のひとよ竹のうめのまきけるよろ
わがよもの翁

赤染集大将殿すゝむとの
ことにし竹をひにとて
ことさらにとせしとふ
かくしよはをすかれ
あかたにかくれ
しらめの
山のやうなる
へきかれ

和名
苦竹　加波多計

あはれなる竹のとなりにかさなりけく川のせ
しらる　よみ人しらす

うつろへるかたの松風なほや竹の葉の秋とおもふらん
題しらす　権大納言長家

ゆきまの野をわけてやあつさゆみいそのかみ松風吹てあはれ
題しらす

秋の野の草葉におきてある花に秋の風まつらん
たいしらす

ふりつもる雪にわたれる竹のはに月さへかへす袖の上かな
よみ人しらす

在五中将
伊勢集云　かりとのゝへつのへて

伊勢集

雲ちかくとよむ我さへ人のよりはなくこそ鳴かね
きく程もなきひとこゑにそめぬらん山ほとゝきすなれを夜
ひせ

赤染集大将殿よりとの
まつらしにかすみたちて
をとたえてもせぬらうは
わらはそかこちちうへ
あやしきゆめのうちに
しきめのうちより

山のやまうらへきこえ

みえもせぬかくれもせぬあなかちに人をおもひかけぬよるのなかの
みちはすゝろにしみつかれたるわかれしかは
きせてわかれて

月をのみ見しにあかすやねのかたはらに浦をはなれて
おもくの家まて人をのみつけけむ
かのちとせの朝

立田の山やまことにいけるしらくものみえはかくれつ

縋

太政大臣の家にてかれこれ題をさくりて哥
よみ侍りけるに露といふ文字をとりて侍て
ふちはらのたゝくに
○ならぬ草葉も物はおもひけり袖よりほかにおける白露
人のもとにつかはしける
いせ
人にあはしの風のおとしたにこそのめしみさ枝そ立ぬ
もと人をあひみてこゝろかはりてつらかりける
よみ人しらす
すみなれし人をわすれんと思ふにもみまくほしさそまさりける

ある法師の源のとしもの朝臣の家にまかりて
ものかたりなとしけるほとにおほとのこもりたまふ
とるとて
うつりゆくおとこまさる○○○露にやとれる
ほうし
ゆふされは草葉におく露のみをしにはてゝおもひのこすらん
きよいしけ源
思ひやるかたなきまゝにいつのまにかはるかなる
むかしを思ひいてゝ○○その内侍に
よみ侍りける
太政大臣

清慎公集

すゞ虫におとらぬねこそなかれけれ昔の秋をおもひやりつゝ

いとはなくなりにける人のりとわいりふそゝく

前栽にくれなゐのあさかほの花よろつかく

つかはしける　よみ人しらず

朝かほのさかりはわさの露をみてあさ露よりそ猶消

たえはのありをかくさうしのおくよりさうけ

なるゝ　川ちゆき

ちるそやはのおしら風といてさそのおもかけそ立

あつしらす　小町かあね

世中とてひくおもの思ひてしうきあめのさゝそみえて絶

しつあひにあひてねたる人の内よさふらひ

ありけるに消息つかはしける

いせ

古雑下

山川のをとにのみきく百しきを身をはやなからみるよしもかな

よの中はいかにやいかに風の音をきくにも今は物やかなしき

いせ集

つかはしける

よみ人しらず

拾遺云読人不知

世中はうきもつらきも風の音におもはぬ秋そかなしかりける

読人しらず

伊勢集

万四

雑二ノ七

万五十一

山田法師

亀甲別本

後撰和謌集巻第十九

離別 羇旅

みちのくへまかりける人に火うちをつかはすとて

貫之

うちつけにこかれてもゆる火の煙おもひたつらんときそ思

あひしりて侍りける人の東のかたへまかりけるに桜の花をつかはすとて

よみ人しらす

わかるゝ人のたむけは桜なれはちるとも(?)なつかしとも(?)

とほくまかりける人に餞し侍りける所にて

橘直幹

おもひやるこゝろはかりはさはらしをなにへたつらん峰の白雲

しもつけへまかりける人にかはらけとりてつかはしける

よみ人しらす

わかるれと(?)人のこゝろ(?)をしらねはやかくさへ(?)つらき(?)

わすれなよ(?)かへるやまの(?)の(?)

とねり(?)

とものなかにあさまの山に(?)梅の花(?)

さそ(?)くさくてよへまかりけるをりにちらよ(?)

古今 行平
立わかれいなばの山の峯
躬恒集
いかでみるのまゝに
ひとりゆくこゝろを
しらずやいかにとも
しの田とも

續後拾遺 離別
おやのおもふ
あけはてまで
よ 藤原相如
吹風につけてたに
いるもとゝまる
なるをたのみて

まくつ川のほとりしけるに
よみ人しらず
これなりと我をとがめな身のうちはなくさめかねつなれしこの世は
うしとおもひてめぐるさへいとゞこのよにかゝる
續千載別
国経のみこのこと
むすめ
かれにし
折をしもいかにまつらんと
みちのくにゝをりて
いせまでのもろびとかたはらに
こゝろあるひとのつまとまうでたる
かみよりさかえてさそはれて

従ひてよりゆく
くるまのみちを
いつか

古今 離別
読人不知
いかにしてあかで
わかれしやのひ
ちかきものを

とりて
おもひにかくてこそそはやくのこしおとこはなぞ
君こそはわかれし秋のなりはてに 人は家よいさう待たる友の慈悲園に
おやのほとりにてのちひとりのかへる
藤原こゝよりて
今はとて立わかれゆくふるさとのみやこを
こぞの関よりかへる人の
ふるかへりのもとにてつかはしける
大窪則善
おほくぼのりよし

作者ア類 勘ヶ由次反
大窪則善 至天徳四年
しけるに

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

返し

わかれちハいとゆかり涙の衣さへこそ涙そちほるらん
たひまくらわかるゝ人にあふさかのせきつゆも涙とて
をしむやあかあかつきの風に心あはせてなけかれそ
友則かむかしのみちのくにまかりける
　　　　藤原滋幹か女
君とのみちきりしのちもゆくすゑもおもひつみこそけさや
つくしへまかるとてきよいさの宰帥におくりける
　　　　小野好古朝臣
ちとせとてあひ見る人の別にハ千とせもさらに命なりけれ

出羽のかみにまかりけるにこれかれむまのはなむけし侍りける所にて
しくるよめる
　　　　源よしつら
別されとえてぬ涙のつゆにこそなれハなくめ秋のよにあつまちの
年のうちもかへしやしきをとわて人のくにへ
まかりくるよりもこそもとそかりけれしたりをも
かつまのそて
わかれてもいまはみるまゝ涙川ささなみとをしかへさんと
あひ見ても侍らん人のわかれさへ夜まての世に
まかりくるよめるさすとて

伊勢集

二六 ㄇ

二七 ㄇ

二八 ㄇ

二九 ㄇ

三〇 ㄇ

三一 ㄇ

三二 ㄇ

三三 ㄇ

三四 ㄇ

三五 ㄇ

三六 ㄇ

三七 ㄇ

三八 ㄇ

三九 ㄇ

四〇 ㄇ

四一 ㄇ

四二 ㄇ

四三 ㄇ

四四 ㄇ

四五 ㄇ

四六 ㄇ

四七 ㄇ

四八 ㄇ

四九 ㄇ

五〇 ㄇ

五一 ㄇ

五二 ㄇ

五三 ㄇ

五四 ㄇ

五五 ㄇ

五六 ㄇ

五七 ㄇ

五八 ㄇ

五九 ㄇ

六〇 ㄇ

六一 ㄇ

六二 ㄇ

六三 ㄇ

六四 ㄇ

六五 ㄇ

六六 ㄇ

六七 ㄇ

六八 ㄇ

六九 ㄇ

七〇 ㄇ

七一 ㄇ

七二 ㄇ

七三 ㄇ

七四 ㄇ

七五 ㄇ

七六 ㄇ

七七 ㄇ

七八 ㄇ

七九 ㄇ

八〇 ㄇ

八一 ㄇ

八二 ㄇ

八三 ㄇ

八四 ㄇ

八五 ㄇ

八六 ㄇ

八七 ㄇ

八八 ㄇ

八九 ㄇ

九〇 ㄇ

九一 ㄇ

九二 ㄇ

九三 ㄇ

九四 ㄇ

九五 ㄇ

九六 ㄇ

九七 ㄇ

九八 ㄇ

九九 ㄇ

一〇〇 ㄇ

一〇一 ㄇ

一〇二 ㄇ

一〇三 ㄇ

一〇四 ㄇ

一〇五 ㄇ

一〇六 ㄇ

一〇七 ㄇ

一〇八 ㄇ

一〇九 ㄇ

一一〇 ㄇ

一一一 ㄇ

一一二 ㄇ

一一三 ㄇ

一一四 ㄇ

一一五 ㄇ

一一六 ㄇ

一一七 ㄇ

一一八 ㄇ

一一九 ㄇ

一二〇 ㄇ

一二一 ㄇ

一二二 ㄇ

一二三 ㄇ

一二四 ㄇ

一二五 ㄇ

一二六 ㄇ

一二七 ㄇ

一二八 ㄇ

一二九 ㄇ

一三〇 ㄇ

一三一 ㄇ

一三二 ㄇ

一三三 ㄇ

一三四 ㄇ

一三五 ㄇ

一三六 ㄇ

一三七 ㄇ

一三八 ㄇ

一三九 ㄇ

一四〇 ㄇ

一四一 ㄇ

一四二 ㄇ

一四三 ㄇ

一四四 ㄇ

一四五 ㄇ

一四六 ㄇ

一四七 ㄇ

一四八 ㄇ

一四九 ㄇ

一五〇 ㄇ

一五一 ㄇ

一五二 ㄇ

一五三 ㄇ

一五四 ㄇ

一五五 ㄇ

一五六 ㄇ

一五七 ㄇ

一五八 ㄇ

一五九 ㄇ

一六〇 ㄇ

一六一 ㄇ

一六二 ㄇ

一六三 ㄇ

一六四 ㄇ

一六五 ㄇ

一六六 ㄇ

一六七 ㄇ

一六八 ㄇ

一六九 ㄇ

一七〇 ㄇ

一七一 ㄇ

一七二 ㄇ

一七三 ㄇ

一七四 ㄇ

一七五 ㄇ

一七六 ㄇ

一七七 ㄇ

一七八 ㄇ

一七九 ㄇ

一八〇 ㄇ

一八一 ㄇ

一八二 ㄇ

一八三 ㄇ

一八四 ㄇ

一八五 ㄇ

一八六 ㄇ

一八七 ㄇ

一八八 ㄇ

一八九 ㄇ

一九〇 ㄇ

一九一 ㄇ

一九二 ㄇ

一九三 ㄇ

一九四 ㄇ

一九五 ㄇ

一九六 ㄇ

一九七 ㄇ

一九八 ㄇ

一九九 ㄇ

二〇〇 ㄇ

二〇一 ㄇ

二〇二 ㄇ

二〇三 ㄇ

二〇四 ㄇ

二〇五 ㄇ

二〇六 ㄇ

二〇七 ㄇ

二〇八 ㄇ

二〇九 ㄇ

二一〇 ㄇ

二一一 ㄇ

二一二 ㄇ

二一三 ㄇ

二一四 ㄇ

二一五 ㄇ

二一六 ㄇ

二一七 ㄇ

二一八 ㄇ

二一九 ㄇ

二二〇 ㄇ

二二一 ㄇ

二二二 ㄇ

二二三 ㄇ

二二四 ㄇ

二二五 ㄇ

二二六 ㄇ

二二七 ㄇ

二二八 ㄇ

二二九 ㄇ

二三〇 ㄇ

二三一 ㄇ

二三二 ㄇ

二三三 ㄇ

二三四 ㄇ

二三五 ㄇ

二三六 ㄇ

二三七 ㄇ

二三八 ㄇ

二三九 ㄇ

二四〇 ㄇ

二四一 ㄇ

二四二 ㄇ

二四三 ㄇ

二四四 ㄇ

二四五 ㄇ

二四六 ㄇ

二四七 ㄇ

二四八 ㄇ

二四九 ㄇ

二五〇 ㄇ

二五一 ㄇ

二五二 ㄇ

二五三 ㄇ

二五四 ㄇ

二五五 ㄇ

二五六 ㄇ

二五七 ㄇ

二五八 ㄇ

二五九 ㄇ

二六〇 ㄇ

二六一 ㄇ

二六二 ㄇ

二六三 ㄇ

二六四 ㄇ

二六五 ㄇ

二六六 ㄇ

二六七 ㄇ

二六八 ㄇ

二六九 ㄇ

二七〇 ㄇ

二七一 ㄇ

二七二 ㄇ

二七三 ㄇ

二七四 ㄇ

二七五 ㄇ

二七六 ㄇ

二七七 ㄇ

二七八 ㄇ

二七九 ㄇ

二八〇 ㄇ

二八一 ㄇ

二八二 ㄇ

二八三 ㄇ

二八四 ㄇ

二八五 ㄇ

二八六 ㄇ

二八七 ㄇ

二八八 ㄇ

二八九 ㄇ

二九〇 ㄇ

二九一 ㄇ

二九二 ㄇ

二九三 ㄇ

二九四 ㄇ

二九五 ㄇ

二九六 ㄇ

二九七 ㄇ

二九八 ㄇ

二九九 ㄇ

三〇〇 ㄇ

三〇一 ㄇ

三〇二 ㄇ

三〇三 ㄇ

三〇四 ㄇ

三〇五 ㄇ

三〇六 ㄇ

三〇七 ㄇ

三〇八 ㄇ

三〇九 ㄇ

三一〇 ㄇ

三一一 ㄇ

三一二 ㄇ

三一三 ㄇ

三一四 ㄇ

三一五 ㄇ

三一六 ㄇ

三一七 ㄇ

三一八 ㄇ

三一九 ㄇ

三二〇 ㄇ

三二一 ㄇ

三二二 ㄇ

三二三 ㄇ

三二四 ㄇ

三二五 ㄇ

三二六 ㄇ

三二七 ㄇ

三二八 ㄇ

三二九 ㄇ

三三〇 ㄇ

三三一 ㄇ

三三二 ㄇ

三三三 ㄇ

三三四 ㄇ

三三五 ㄇ

三三六 ㄇ

三三七 ㄇ

三三八 ㄇ

三三九 ㄇ

三四〇 ㄇ

三四一 ㄇ

三四二 ㄇ

三四三 ㄇ

三四四 ㄇ

三四五 ㄇ

三四六 ㄇ

三四七 ㄇ

三四八 ㄇ

三四九 ㄇ

三五〇 ㄇ

三五一 ㄇ

三五二 ㄇ

三五三 ㄇ

三五四 ㄇ

三五五 ㄇ

三五六 ㄇ

三五七 ㄇ

三五八 ㄇ

三五九 ㄇ

三六〇 ㄇ

三六一 ㄇ

三六二 ㄇ

三六三 ㄇ

三六四 ㄇ

三六五 ㄇ

三六六 ㄇ

三六七 ㄇ

三六八 ㄇ

三六九 ㄇ

三七〇 ㄇ

三七一 ㄇ

三七二 ㄇ

三七三 ㄇ

三七四 ㄇ

三七五 ㄇ

三七六 ㄇ

三七七 ㄇ

三七八 ㄇ

三七九 ㄇ

三八〇 ㄇ

三八一 ㄇ

三八二 ㄇ

三八三 ㄇ

三八四 ㄇ

三八五 ㄇ

三八六 ㄇ

三八七 ㄇ

三八八 ㄇ

三八九 ㄇ

三九〇 ㄇ

三九一 ㄇ

三九二 ㄇ

三九三 ㄇ

三九四 ㄇ

三九五 ㄇ

三九六 ㄇ

三九七 ㄇ

三九八 ㄇ

三九九 ㄇ

四〇〇 ㄇ

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用

雜一之八右十二

羇旅哥

あ[illegible]へ[illegible]ありて筑紫へまかる
とて はつせ川をわたるとてよみ侍ける
よみ人しらす
はつせ川わたるせさへやにこるらん世にすみかたき我身とおもへは
たのめしほとところて
あふみ[illegible]をこそ[illegible]浪の[illegible]
東へまかりけるにすきにし方こひしく
おほえけるほとに川をわたりけるに浪のたちけるを見て
在原なりひらの朝臣
いとゝしくすきゆく方のこひしきにうらやましくもかへる浪かな
白山へまうてゝ[illegible]みちよりかへりける人に
[illegible]侍
よみ人しらす
[illegible]白山[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

上別中云 平[illegible]
大中臣能宣朝臣 [illegible]
古今 雜下 世の中[illegible]
[illegible]

上別中云
平政たらよりつ
いやしき名そて
人の国にまかりけ
るにとて
しらはとせ川大和
つくしにあり
まかるにわかれ
参河の国の郡
谷部郷
新一之八右十二 十 十九

羇旅部

あら人のやしきなといて越後へまかる
とてしら川をこえ侍るとてよみ侍る
よみ人しらす

しら川のせきをきくやまさかにまたすゝしきれ我身さへ
たのみしほとにて

あふさかをこえてみそ折りし清濁のぬれ衣あらくよ きみもん
東へまかりなりますさかうらこひしく
あかくなりけるよ川をこえわたりけるよまかるの
立ならをみて まかりしもの館

[illegible]
大中臣祐定朝
[illegible]

いさゝくすみの風につれて山すくもかつる浪かな
白山へまかりてなくよみちあかりのたのもしれ人
まつはくつらしくな
よみ人しらす

又こそ[illegible]
[illegible]

中原宗興

山風の草木の露はしらたまの
あくかたもなきすゝしき夜は
ゆくかたもなき山のはの月の
おもかけに見えつゝ安倍のかた
かたらひてそむかれぬる
思ひやるらく　川ちかさ

土佐日記

みやこにて山のはにみし月なれと海より出てうみにこそいれ
法のみちのこゝろはこかすとも

菅原右大臣

六

水のおもにてる月なみをかそふれは
道まかりけるほとにその山をすきける
日たかき山のふもとにてみちのくの
あふさかの山のふもとゆくよ
よみ侍りける　いせ

草枕ひとりぬるよのよもすから
うちなかめつゝ山のはに雲かくれ
なるをのみまつかな

をりにふれてよめる
うつろふはこゝろのはなにそありける
いろみえてうつろふものは世中の人の心の花にそありける
つくま

小町

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166　ガラス使用

古今之詞 新上し
つくしのかゝる
かせるみの侍る
てみえたりし
まて

花さかりくもゐのほかをすきゆけはしらぬ浪
あつまへゆくのりくわかるるみちのさかひ
みのおもひの雲のゆくゑも京のまつのか
まきとりよおもふ

あかつきの雲の山をとりしらねは
法皇ともに京の山かくれの京よりわか
をかしなりあしのやとりし心をもとむる
さをの中道に世にわたりけるに

恵静法師　御導師

僧正聖寶

後撰十九

今日くゝとのこといひ雲くもみかはにいつる
たたわれはまつのなかなる
あく月を見て　貫之

ケフ　ケフ
且今日且今日　万葉
けふけふれんし

六みなといふ月の
てる月のなかるゝみれは天の河いつるみなとは海にそありける　土左日記

亭子院御製

草枕みちのまにまにゆきめくり京をはるかに思ふ夜は
京にてきゝしよりもなかくぞ九月もちかしとおもふ

よみ人しらす

朝まつのかけたる雲のあさきはしの松のね

三十六
ゆくへのほかに
うきよのこの法
ちかき行まり

苔むしてけふのみやまれや露と瀬をさへおもて
こやのうきよにふるさとにも法皇ありまつる
そのよにおりせさらにおもはく
うせ侍りし

杣山に涙ふかきやとうへさゝ滝のおちるおもはかけらや
ちゝん

二ア合二八十四ヲし
十八そ

典侍明子
作者ア類 中納言敦忠 女ヲ可ト云ク
元輔集

後撰和歌集巻第二十

賀哀傷

女八のみこ元服の日宰相の加冠し
侍りけるにきくの花をかさしにおりて

藤原伊衡朝臣

六
あさの霜ふりにける白菊を うつろへやとそかさしつるかな

典侍あきらけいこのちの宰相の君の元服し
侍りけるに玄朝法師のりかへさぬく流に
おくりけれは

典侍あきらけいこ

雲ゐにそあまのは衣いさゝかて君がちとせにおふまのめかな

題しらず　太政大臣

あとりゆわ子に於そおひめいこれい事とつまんとこそ思
のわかさの身まかりにしかば白妙の
侍りける小倉大臣これかれあつよみせ侍りける

つらゆき

ひとの世も行とちと世に歎ある人の思ひかりそめなる
かくのやうなることも侍りけるこころあらく

よみ人しらず

りとせこつふせ我にてよあかしおりにあるならすそあは
たちた兵衛の右に子女子あつかりしもとこそ侍りけれ

貫之

おほはらや小塩の山の松はらもあまりにけらん世にけらん
人乃ふかすみすらふかてあをの花をかそへて

よみ人しらず

おりのあたに咲きて咲よ松にも松風やまふかなるらん
世のうきに何かはうしけれ
きみこの為松のちとせをつきにる色もえて海くさのみせ代か
年星をへてあふみて世に擅越乃わりしよわかき
ひかりて待らむ花とらんつくしけむ

ゆいせい法師

但馬守庶家歌合に

百とせにやそとせそへていのりけん玉乃声を君か為とや
たゞ大臣の家に今ふかくいはひそめけん
々

僧都仁教

六条右大臣皇子時貞信公家御往還給時奉御手本

万ふぞくとさゝくるまさに万よの花のさかりを[illegible]
今上帥乃みやときこえし時太政大臣の家に
わたりましまして侍りけるに[illegible]
御幸たゞいまつるとや

太政大臣

貞信公イ

君か為いはふ心のかぎりなくあしきも[illegible]ぞ
御返し

今上御製

万五長歌

とほく事たえにし神の道をも[illegible]
今上梅壺にわたりましましし時たまはせける
よろこびをしるべけむ
山の端のこゝろたえぬ君かおもはくもちはやぶるとぞ思
御返し

御製

ちはやふるかみなつき[illegible]
東方の御おくれ行[illegible]

きこえて

君か為うけくみるに[illegible]
院の殿上にてこやの御方よりさしつくさせ

古今　友則
[illegible]

猶ひろきこゝろはけのゆかり

命婦清子（イサギヨイコイ）

よのうへ風ふくらんも思ふまゝに宿ゝよのつきんかさねれ衣みよ
西風兼のみやの家風山まて女郎のみゝ[illegible]とよ

右大臣

あみそら松のみとわ風殺生のさわ（と）わつちよとされともかはらん

十二月つこもりによみ侍ける

津守国基

いつ事あわさたるもろこしれたとしれたる[illegible]

きさらきの

十八ヂ

哀傷部

敏 亡妻之後不知其由従関東有送馬之者不堪悲涙聊述所懐

九条
右大臣家本
このうたや上ニ出たりとせるまして
のちつくみたりける内侍のうた
まのかきたりし
之し
もとの筆てかし
内侍のうたとていれとし
あやまりとみゆるとも

女宮のみこ乃うせの侍りけるよかはさうらふあく
内侍のうとよ　右大臣
つねならぬ花をもちらぬ花もちりぬるみちをみてなかめかな
内侍のかたん
むかしよりさきをしらねどひとこそみえわたりえ物をさなそこ
女宮のみこ乃事をうつひ侍りとて
いせ
あふことの絶えぬる中にあらばおもひ人の涙しつくやこもらん
しらぬか
よるへ人しす
きみ人のおもひおもてふるる別よりはうき涙ぞつくせざりける

先帝おはしまさで又のとしの四月一日によみ侍りける　三条太政大臣
いにしへのうきにもみちのあらましをめづらしげにもみゆる卯のはな　選子内親王
たのむ方にはまさりておもふこそはかなけれ
哀傷にて帰りつるの秋　三条右大臣
今は夢もはかなみはかなしもあひみし人のたのみぞかひなき
あれまさりゆくのをすみ侍る人のうつりおもふ
かの侍りける人とむかしもかはらぬ御心まさるを
見ん侍る　道綱母

玄清集云
あはれなる人はなくなりにしところを
みにくるとてはるてまへて
つくりたるみつるあめの
出てきたいかしのくさ
それいかにかり
赤染集

右大臣

後撰集巻第十

後於哀　平教成
うすくこきの
色はかはらし
かうしのる袖に

墨染のこきもうすきもみる時はかさねて物そかなしかりける
母のみこのくれ侍りける時
太大臣
咲まちてちるよと櫻君とわかれしきのふそ

保明親王延喜四年二月十日
立太子同廿三年三月廿一日
薨謚曰文彦太子　本名
崇象以薨其所号東前
坊東宮雅院是也今者一
品御所也　其慶頼親王
延喜廿三年四月廿九日
立太子延長三年六月
十八日於職御曹司
薨所謂号西前坊

先坊をこひての春大輔につかはしける
もろかみの新枕のむかしかな
わか宿とたのみし君はくれにけり花にやとりて鶯の声をやなかまし
返し
大輔
ねてもさめてもみぬ日に鶯のむつひの声をこそきけ
松かとも秋
玄上朝臣女

玄上延長十九年参議
刑部卿承平二年従三位
三年薨五十八

清ともにふみよみ侍りける秋の露わかるる袖と思ひけるかな
きえはてゝこのよのうきことわすれて侍
ゐくよつらきそ
藤原守文
常ならぬ事をさくの子とも露そ涙なりけり
返し
清正
きくの上の露をみてなかん命のよをはかなしと袖を思ひやりけん

承平三年二月十六日薨
兼輔云　京極中納言云々やかて
てはありけるをおもひいれけるこゝ
ろゆるしてまへと作にゝめるくるしん
て
松さゝ竹に別て之くや
なほその内にすくるゝ
侍よりて立ちくるゝ
たゆれぬるけ
松のしたに

兼輔朝臣なくなりてのち土左のくにより
まかりのほりてかのあはたの家にて
貫之
上類二ふたはとりきて人ゝこそ社
老より松のほとくつるより
とき心さる合てきくし
ひきうゑし二葉の松はありなから君かちとせのなきそかなしき

国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用　挟み込み物

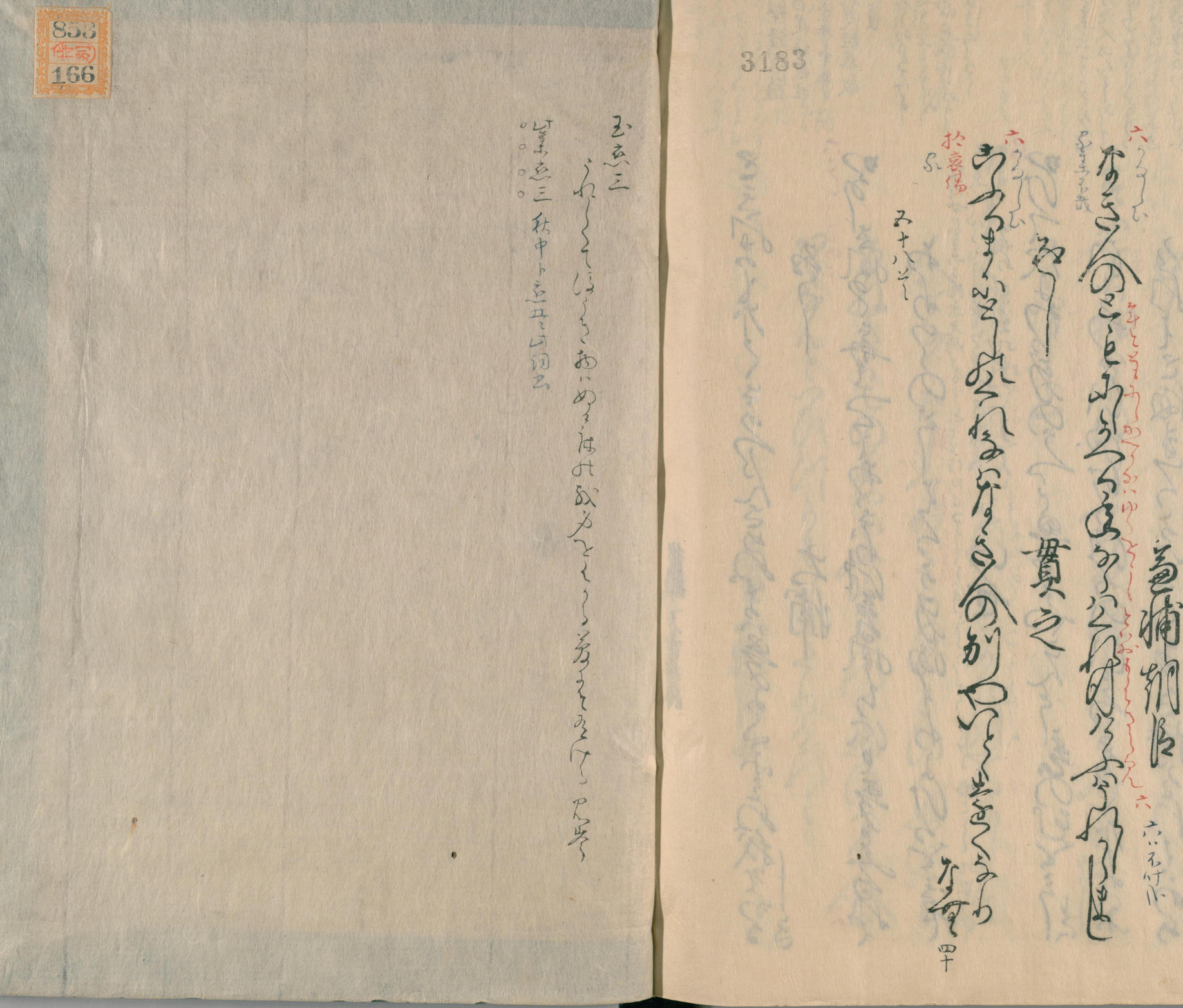
飛仙法師

万十五　哀傷

涅槃経菩薩
品曰是諸衆生
乃至夢中夢
見是経恭敬
供養
古今和歌
よみ人しらず

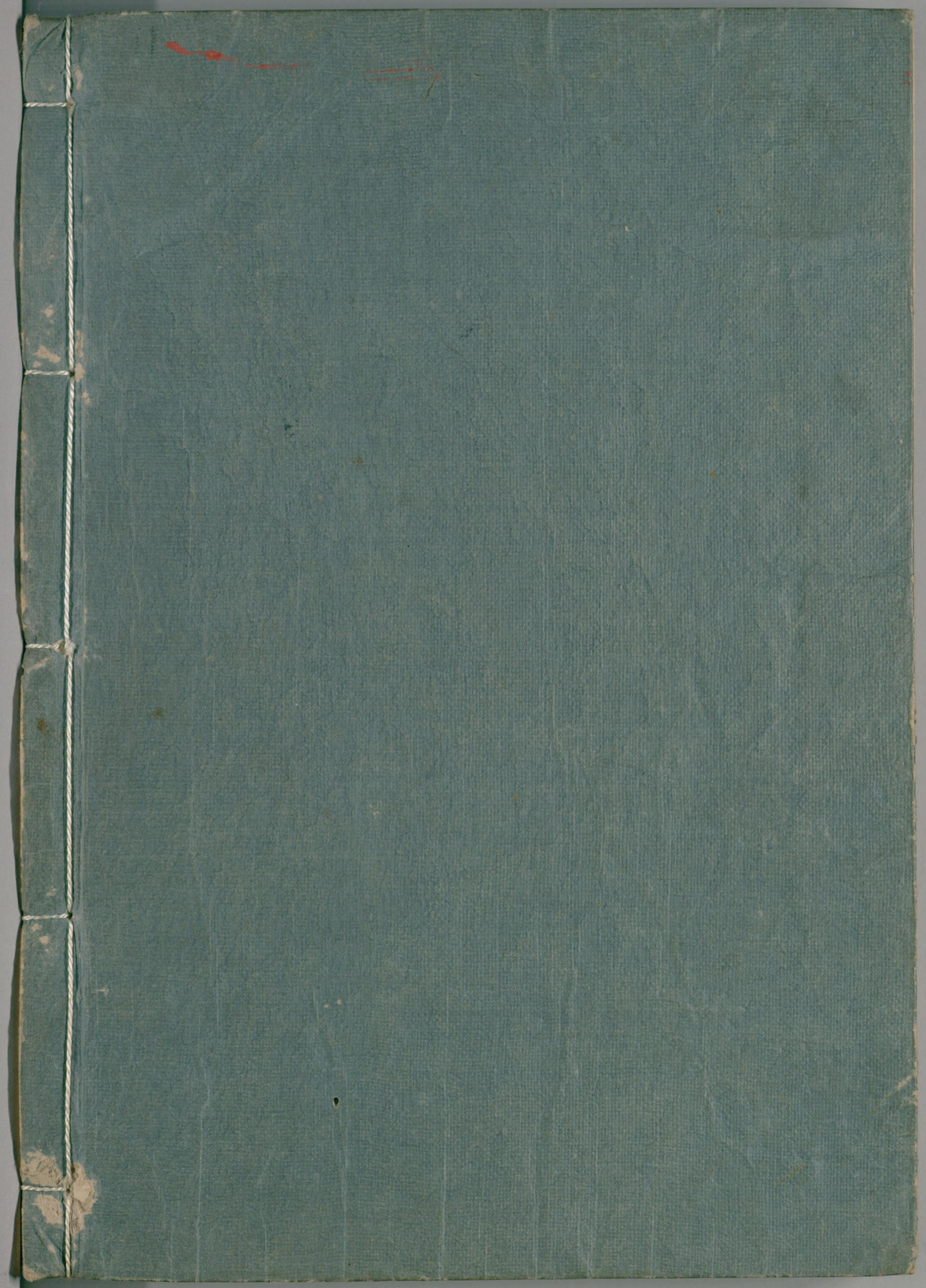
853
166

3183



国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『二十一代集 400巻』 請求記号 853-166

ガラス使用